

《今月のトピックス》

- インフルエンザ注意報が発令されました。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

全数把握の対象

1 コレラ: O1 エルトール小川型 1 件の報告がありました。フィリピンでの経口感染が推定されています。現在までにコレラの世界的流行は 7 回にわたって記録されており、第 1 次流行からの第 6 次流行までは、すべてインドのベンガル地方から世界中に広がり、原因菌は O1 血清型の古典コレラ菌でした。しかし、1961 年にインドネシアのセレベス島(現スラワシ島)に端を発した第 7 次流行は、O1 血清型のエルトールコレラ菌であり、この流行が現在も世界中に広がっていて、終息する気配がありません。WHO に報告されている世界の患者総数は、ここ数年 20 ～30 万人ですが、実数はこれを上回っていると推察されます。

◆国立感染症研究所ホームページ: [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k00-g15/k00\\_01/k00\\_01.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k00-g15/k00_01/k00_01.html)

- 2 細菌性赤痢: Shigella sonnei 1 件の報告がありました。感染経路、感染地域等不明です。  
 3 パラチフス: 1 件の報告がありました。パキスタンでの感染が推定されています。  
 4 レジオネラ症: 1 件の肺炎型の報告がありました。感染経路等調査中です。  
 5 アメーバ赤痢: 1 件の腸管アメーバ症の報告がありました。国内の感染が推定されていますが、感染経路は不明です。

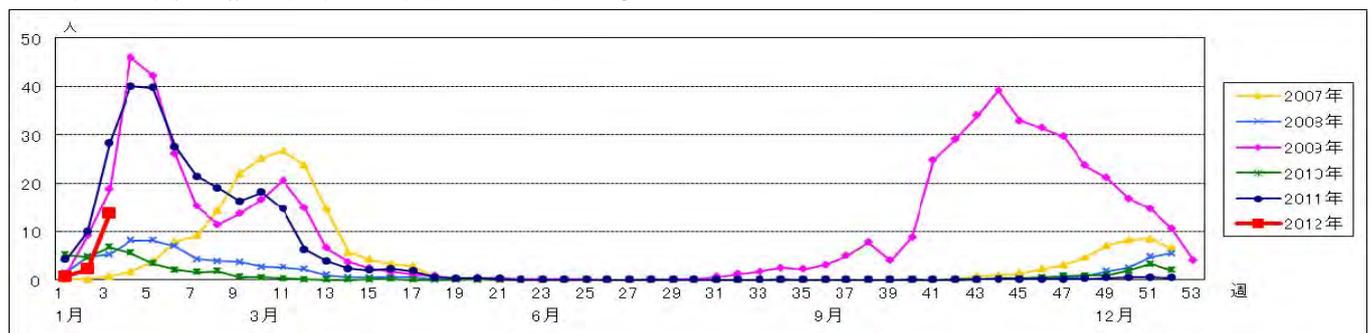
6 破傷風: 1 件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。破傷風は、その原因や罹患する患者の違いから、創傷性破傷風と新生児破傷風に分類されます。創傷性破傷風は成人の破傷風のほとんどを占め、刺創や挫傷などの他、極めて些細な外傷からの感染が多く報告されています。破傷風菌は広く土壌中に常在しており、農作業等に従事する人は予防接種が重要です。さらに歯槽膿漏患者の病変部位からの感染や、糖尿病患者のインスリンの自己注射や採血による感染も報告されています。また、米国や英国では注射による薬物依存者での報告もあり、芽胞に汚染された薬物、その溶解液や注射器からの感染の可能性が指摘されています。

◆国立感染症研究所ホームページ: <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/349/tpc349-j.html>

定点把握の対象

1 インフルエンザ: 第 3 週に市全体で定点あたり 13.71 となり、注意報発令基準(定点あたり 10.00)を超え、注意報が発令されました。第 3 週での注意報発令は昨シーズンと同時期です。迅速キットの結果は 9 割程が A 型で、1 割程が B 型です。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3 型 87%、B 型 13% であり、AH1N1pdm09 は検出されておらず、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出された AH3 型ウイルス 14 株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI 価が、8 倍 8 株(57.1%)、16 倍 6 株(42.9%)となっていました。

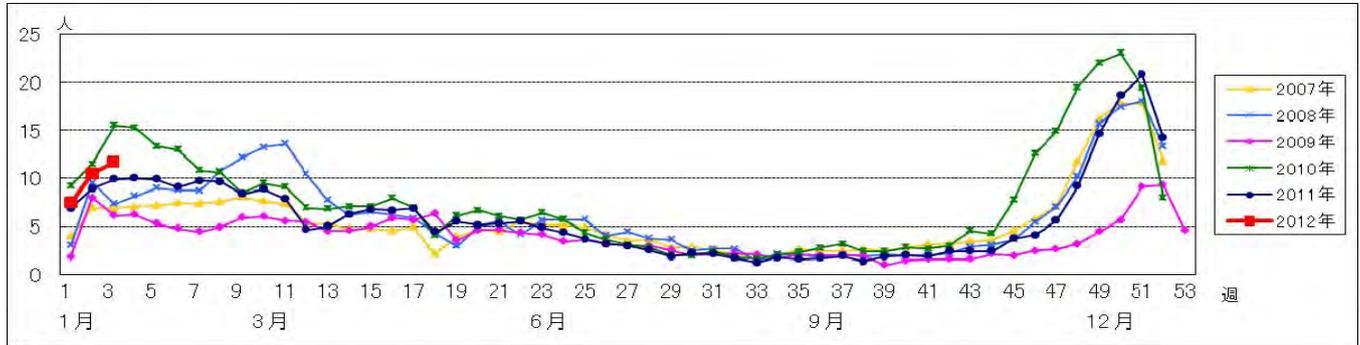
週	日
第 51 週	12 月 19～25 日
第 52 週	12 月 26～1 月 1 日
第 1 週	1 月 2～8 日
第 2 週	1 月 9～15 日
第 3 週	1 月 16～22 日



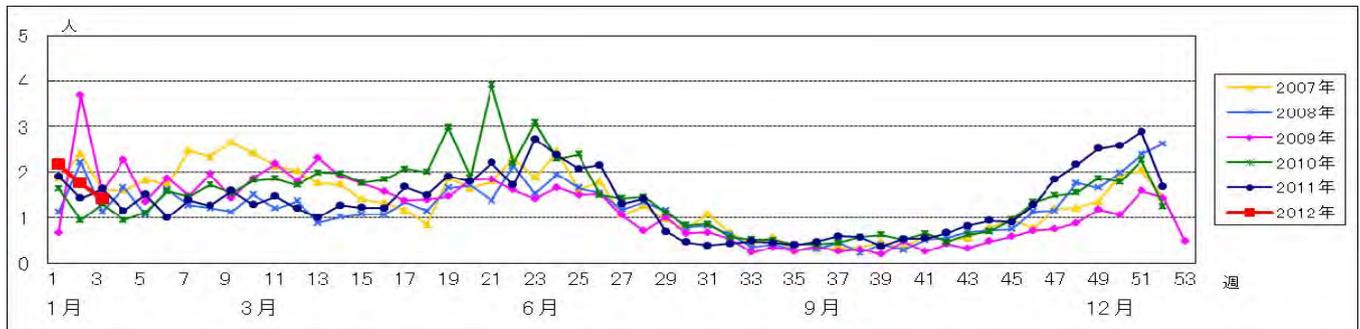
2 感染性胃腸炎:市全体で昨年末に流行がみられましたが第51週20.76をピークに減少に転じました。しかし、第2週から再び増加し、第3週には11.69となり、区別では神奈川区が20.67で警報レベルです。引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:感染性胃腸炎臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/gas/gas201150.pdf>



3 水痘:市内全体では、昨年51週2.88と、例年より多い報告が続いていましたが、第2週1.74、第3週1.40と減少しました。区別では瀬谷区4.50で注意報レベルとなっています。



4 性感染症:12月は、性器クラミジア感染症は男性が13件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が0件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第51週では定点あたり2.00、52週1.00、1週1.50、2週1.50、3週2.50と、前シーズンの51週0.00、52週0.00、1週0.00、2週0.00、3週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎(H. influenzae)が第3週に1件ありました(乳児、予防接種歴2回。治療により快方に向かっているそうです)。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:12月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症10件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>